

会 議 概 要

審議会等の名称	喜多方市下水道事業経営等審議会
会議の名称	令和5年度第1回会議
開催日時	令和5年8月1日（火）14時00分～16時00分
開催場所	喜多方市役所本庁舎3F 第1会議室
出席者	委員9名 横山委員、上野委員、坂内委員、遠藤委員、遠山委員 吉田委員、一重委員、佐藤委員、白井委員 事務局6名（所管課：建設部下水道課） 馬場建設部長、真部下水道課長、戸田主幹、 斎藤主任主査、尾崎総務係長、百瀬主査
会議内容	1 諮問 下水道使用料のあり方について 2 議事 (1) 諮問事項 下水道使用料のあり方について (2) 今後のスケジュールについて (3) その他
配布資料	令和5年度喜多方市下水道事業経営等審議会第1回会議次第 諮問書（写し） 資料1 喜多方市下水道事業経営等審議会委員名簿 資料2 令和5年度喜多方市下水道事業経営等審議会事務局名簿 資料3 喜多方市下水道事業経営等審議会条例 資料4 令和5年度喜多方市下水道事業経営等審議会第1回会議 資料

◎第1回会議 会議要旨

委員：「9. 望ましい方向を示している時を高い水準と表現します。」とあるが、本文中にそのような表現は見受けられない。記載されている指標の中に、高い水準に達しているものはないのか。

事務局：資料に記載している4つの指標において、高い水準に達しているものはありません。なお、高い水準となるものに有収率が挙げられますが、今回資料には記載しておりません。

委員：指標の分析はよいと思うが、低い水準となっている指標について、要因をどのように分析しているのか。

事務局：本市は合併により引き継いだ4事業18施設がありますが、地理的要因から施設の統合ができておらず、施設の効率化が図られていないことが原因と考えています。

委員：利用者として住環境を整備してもらっていることは理解している。しかし、「現状の経営が厳しく、今後事業を見込んでいるため、適正な料金改定をしてほしい」という説明では乱暴な説明だと感じる。住民目線を踏まえ、値上げの理由を記載するべきと考える。

委員：P15 経常収支比率において、令和4年度は特環だけが100%を下回っているが、理由は。

事務局：修繕費が高くなったためです。全体としては100%を超えているため、経営上は問題ありません。

委員：水道事業の国土交通省移管による下水道事業への相乗効果は考えられるのか。

事務局：水道事業の国土交通省移管による上下水道事業の相乗効果については、下水道使用料のあり方検討においてはその影響は考慮していないが、今後、事業の移管について情報収集を図っていきたい。

委員：P21 水洗化人口は、令和4年度から令和14年度の10年で約430人の増加とあるが、毎年約5億円の未普及対策事業を行って430人の増加なのか。

事務局：水洗化人口は下水道供用開始区域内全体での推移でありますので、整備区域の拡大により水洗化人口は増加することになりますが、人口減少による影響が大きく、その分を考慮した結果、水洗化人口は約430人の増加と見込んでいます。

委員：改善に向けた対策として、適正な下水道使用料とあるが、市の意向を踏まえたものと感じるため、利用者の意見も踏まえてほしい。市は市民生活を守るのが任務であるため、この視点を踏まえてほしい。スケジュールの説明において、これまでの経緯の説明のところで、経営戦略の見直しについて市議会議員に説明を行ったとのことだが、どのような意見があったのか。

事務局：経営戦略の見直しにより、下水道使用料の見直しも行うのかとの質問がありました。国から経営戦略の見直しにあたり、5年に1度、使用料のあり方について

検討することを求められているので、使用料のあり方について検討していく旨説明を行いました。

委員：将来の事業環境について、気象変動を踏まえて浸水対策事業の投資額が増える
と考える。緊急の災害対応も含めた見込みはどのように考えているのか。

事務局：浸水対策についての計画は策定しており、浸水対策をする基準は計画降雨を超過した場合である。事業としては、計画降雨を超過した場合の対応策として処理場施設の嵩上げや浸水扉などの実施設計を予定しております。

委員：基準外繰入金をするにあたって一般会計と下水道事業会計との取り決めがある
のか。

事務局：一般会計からの繰入金は、財政課が中期財政計画を基に予算に反映しており、
繰入金の額は市の財政状況を踏まえて年々削減されている状況です。そのため、
下水道事業では昨年度から資本費平準化債の借入れをしており基準外繰入の減額
分に対応しているところです。しかしながら、いつまでも借りられるものではない
ため、令和 11 年度を目途と考えております。

委員：汲み取り料金も払えない人がいるなど生活水準の低下や高齢化ということを考
えると料金改定や接続率の向上は難しいところもあると考えている。

委員：料金改定の背景は理解したが、水道の工事と下水道の工事を別々に行うのでは
なく、一括で効率的な整備を行うなど経費削減に努めてほしい。し尿処理の話も
同じで、効率化を図るなどして経費節減を図り、市民生活を考慮してほしい。